

令和6年度 東北農林専門職大学附属農林大学校 学校運営評価

【運営方針1】教育カリキュラムの充実

【評価基準】 A:大きく上回る B:上回る C:概ね達成 D:やや下回る E:下回る

【基本方向】農業新技術等を組み入れたカリキュラムの強化					
評価項目	評価目標	具体的方策	取組状況	自己評価	次年度に向けた改善策
1 特徴的な教育計画の取り組み【新規】	(1)新たな教育計画の取り組み:1件	① 特徴的な教育計画の実施【新規】 新設された東北農林専門職大学の附属校化を受け、「実践教育の充実」「地域社会のリーダー育成」等の農林大学校の役割や特徴を一層明確にした教育計画へのリニューアルを図ったため、実践に基づいた卒業論文作成の教育を充実すると共に、多様な進路(就農、農業法人就職、農林業を起点とした産業への就職、農林行政研究機関への就職、進学など)に対応した実践教育を充実する。また、同大学からの講師派遣等を通じて、教育水準の向上にも取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践教育を強化するため、以下のとおり教育計画を見直した。(主な変更点) <ul style="list-style-type: none"> <li>○卒業論文に関する時間数の増加(現行:288時間⇒見直し後:320時間)</li> <li>○英会話に関する時間数の減少(現行:64時間⇒見直し後:32時間)等</li> </ul> </li> <li>多様な進路に対応した実践教育を実施し、全学生の進路が決定した。</li> <li>スマート農林業Ⅱ、園芸施設利用、土壌肥料等に専門職大学教員から講師派遣を受け講義を実施した。卒業論文中間発表会・発表会に専門職大学教員を助言者に迎え、指導を受けた。</li> </ul> <p>* 教育計画を見直し、多様な進路に対応した実践教育を実施し、専門職大学がら講師の派遣を受け、教育水準の向上が図られたことから「B」評価とする。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門職大学設置に伴う大幅な見直しは終了したことから、今後は実際に運用しながら、時代の変化等必要に応じて修正を図っていく。今後も、学生の多様な進路に対応した実践教育を充実し、専門職大学と連携した教育を継続する。</li> <li>農産物の生産工程管理等への意識の高まりを受けて、県主催のGAP基礎研修会に学生の参加を促し、IGAP指導員資格の取得に向けた取り組みを行う。</li> </ul>
2 先進技術等に対応したカリキュラムの充実	(1)スマート農林業に関する講義の実施:12回	<p>① スマート農林業に関する学習の充実【継続】</p> <p>農業部門では講義のなかで、アシストスーツ着用作業体験やドローンによる葉色診断に基づく可変追肥技術、ICTを活用したセンシングによる環境制御技術や高度な経営管理技術などを取り入れ、体系的にスマート農林業を学ぶ授業とする。また、実習のなかで、水稲ではドローン防除やスマート田植機(GPS)の活用、野菜ではICT育苗ハウス(遠隔モニタリング)の利用開始、果樹ではロボット草刈機実証を取り入れるなどの取組みを行う。</p> <p>林業部門では、VRを用いた伐倒やかり木の危険予測技術、レーザー計測やドローンを活用した森林管理などの知識と技術の習得に向けた講義を継続する。また、今年度から新たに、QGISによりレーザー計測データを用いた間伐など技術を講義に取り入れるとともに、卒業論文のなかで実践的な活用に取り組む。</p> <p>なお、スマート農林業に関する講座のうち機械表演を伴う授業は公開授業として実施するとともに、令和6年度から農業高校にも情報を提供して、スマート農林業学習の機会を提供する。</p> <p>② 気候や社会の変化に対応した学習支援【新規】</p> <p>近年の気候変動や社会の高度化に対応した教育を推進する。</p> <p>新設された気候変動対応型農業研究・研修センターやスマート農業研究・研修センター、スマート畜産研究・研修センター、スマート森林業研究・研修センター、ICT・GIS(情報通信技術・地理情報システム)教室を活用し、気候変動に対応した農産物の生産と経営や高度なスマート化社会に対応した効率的な農林産物の生産と経営、ICT・GISの高度技術を活用した農林産物の生産と経営に関する教育を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農機具メーカーの協力を得て、ドローンによる模擬操作(8月)、アシストスーツ着用の実演と講義を実施した(2月)。</li> <li>農業用マルチローター操作技術研修(5日間)を9名が受講し、全員がライセンスを取得した。</li> <li>稲作経営学科では、ドローンによる農業散布実習を2回実施した。また、卒業研究ではドローンによる水稲種子の直播を実施した。</li> <li>果樹経営学科では、園芸農業研究所と最上産地研究室において草刈ロボット除草実演の実習を実施した(9、11月)。</li> <li>林業経営学科では、GNSSを用いて観測、面積、距離を求める講義と実習を実施した。GNSSを用いて求めたデータを活用しQGISの基本操作とQGISを活用し、災害リスクと森林路網の点検などの活用方法の講義と実習を実施した。また、卒業論文の課題として航空レーザー計測データを用いて林業適地を判定する実践的な活用に取り組んでいる。</li> <li>(組織改編により専門職大学キャリアサポート・研修センターが専門職大学の講師陣による公開講座を3回開催し、校外から9名の参加を得、その全員が農業高校職員だった。)</li> </ul> <p>* 各研究・研修センター(各学科の現場教室)において、実践的な教育と併せてインターネットへ接続してアプリケーション等通信を必要とするソフトウェアの活用により社会の高度化に対応した教育を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>野菜・花き経営学科野菜コースでは、学生がスマートフォンを用い、各作業記録や生育記録などをアプリケーションで作成し、それらのデータを圃場管理や卒業研究の取りまとめに活用した。</li> <li>畜産経営学科では、「牛恩恵」と「監視カメラ」の導入により、分娩監視の労力が軽減された。また「ファームノート」の導入により、牛群データの共有が図られた他、各種通知機能により異常牛の発見や発情観察が省力化された。</li> </ul> <p>ICT・GIS教室において、卒業論文に必要なデータの取りまとめと情報収集、卒業論文等の作成の指導を行った。</p> <p>* スマート農林業に関する講座や・機械やシステムの実習等を16回実施した。また、各研究・研修センター(各学科の現場教室)やICT・GIS教室を日々の講義・卒業論文作成等に活用したことから「B」評価とする。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門職大学設置に伴い、スマート農業研究・研修センター等(新たな現場教室)が設置されたこともあり、導入された機材等を活用して実習の中にスマート農林業の技術をさらに取り入れていく。</li> <li>各研究・研修センター(各学科の現場教室)にインターネット環境が整ったが、関連設備の充実を検討する。</li> </ul>
	(2)農大チーズの販売回数:10回	① 製品加工実習による農産加工技術の充実【継続】	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳製品加工施設を利用した加工技術に関する実習・製造を行い、ストリング、モツアレラを合計15回販売した。</li> <li>農産加工経営学科2年生の卒業研究関連でゴーダーチーズの製造について取組み、農大市場で計4回販売を行った。製法のマニュアル化も進みつつある</li> </ul> <p>* チーズ全体で合計15回販売し、目標の10回を大きく上回ったことから「A」評価とする。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳製品加工技術習得に向け、引き続き実習に取り組む、農大市場等を通じて販売を継続する。</li> </ul>
3 実践教育を重視したカリキュラムの充実	(1)先進農林業者等体験学習の受入農林業者等の評価:良好との評価80%	<p>① 先進農林業者体験学習等の実施【継続】</p> <p>農業者の下での実地体験を通じて、実践的な技術や優れた経営感覚を学ぶため、1年次に前期10日間、後期10日間の先進農林業者等体験学習を実施する。農業法人等への就職に向けたマッチングの機会ともなるよう、受入先については、学生の希望を聴取しながら、十分協議し、決定する。</p> <p>② インターンシップの実施【継続】</p> <p>法人就職及び就職希望の学生が、現場で実践的な技術や知識を学ぶため、農業法人や食品関連企業、森林組合等の理解と協力を得て、インターンシップを実施する。</p> <p>農業法人からの求人募集が遅い傾向にあることから、年度当初から農業法人に対して求人募集を働きかけるとともに、学生に対してはインターンシップに積極的に参加し、就職イメージを早期に醸成するよう、指導する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予定通り1学年の先進農林業者等体験学習を6月と9月に10日間ずつ実施した。現場における先進技術を学ぶ機会になる一方、体験学習先への就職を希望する学生にとってマッチングの機会となった。受入れ農家については、山形県地域営農法人協議会の協力を得て、受入先の拡大を図った。</li> </ul> <p>* 受入農林業者等からのアンケート結果により、5段階評価のうち高評価(上位1,2)は前期94%、後期91%であり、目標の80%を上回っていることから、「B」評価とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>雇用就農及び就職希望の学生が、農業法人や農林業関連企業等から理解と協力を得て、インターンシップを実施した。(計27回)</li> <li>インターンシップを実施し、就職志望先に関して業務や職場環境等への理解を促進することで、そのままインターンシップ先への就職につながるケースが15件あった。インターンシップ先の農業法人等からも、事前に互いのことを知ることができる良い機会と概ね好評だった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度県外出身の学生が県内で就職した事例を分析したところ、宿泊を伴う体験学習を受け入れた農業法人に就職するケースが見られた。来年度も県外出身の学生が入校予定のため、地域営農法人協議会と連携し、宿泊込みで受入れ可能な体験学習先を確保し、県内への就農につなげていく。</li> <li>近年、雇用就農希望者が増加傾向にある中、インターンシップは企業側及び就職希望の学生双方にとって、マッチングの場として最適であることから、引き続き農業法人や農林業関連企業等の理解と協力を得て、インターンシップを実施する。</li> <li>特に農業法人については求人募集が遅い傾向にあることから、山形県地域営農法人協議会等の協力を得ながら求人募集を働きかけるとともに、学生に対してはインターンシップに積極的に参加し、就職イメージを早期に醸成するよう、指導していく。</li> </ul>
4 先端技術に関する現地調査カリキュラムの充実	(1)現地調査の実施数:100回	① 最先端の研究や生産現場等での現地調査の実施【継続】	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学科における現地調査の実施回数:188回</li> <li>農業関係学科では、先進的な技術に取り組む農業法人、卸売市場、試験研究機関、食品製造業者、小売店等に向き、経営に対する考え方、最新技術、最新情報、市場動向等を学んだ。</li> <li>林業経営学科では、森林組合や木材関連企業等に向き、実践的な技術習得、特にGPS機器を使用した実習やGISによる森林情報管理技術など、IT関連の最新技術について学んだ。</li> </ul> <p>* 現地調査回数が、目標回数100回を大きく超えたことから「A」評価とする。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業関係学科においては、引き続き、次年度以降も現場における優良事例や最新の技術等を視察することで、次代を担う経営者としての感覚を養成する。</li> <li>林業経営学科では、林業・木材関連企業等の協力を得て、最新技術等に関する知識の習得を引き続き支援する。</li> </ul>

自己評価	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>教育計画を見直し、多様な進路に対応した実践教育を実施し、専門職大学がら講師の派遣を受け、教育水準の向上が図られた。</li> <li>スマート農業やチーズに関する取組みの充実を図っており、講義や販売の回数の増加に繋がっている。</li> <li>先進農業者体験学習では、概ね高い評価をいただいた。インターンシップを有効に活用し、自身の進路決定に繋げるケースも多かった。</li> </ul>	B

学校関係者評価(意見)	学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>専門職大学との連携を図り、共通の講義を取り入れるなどして学生の意識改革をし、学生のレベルアップを期待する。</li> <li>新たな機材を活用し、気候や社会の変化に対応した学習支援やスマート農業学習の充実を期待する。</li> <li>専門職大学と併せた施設や体制整備が円滑に進んでいることが確認できた。専門職大学との連携・調整が引き続き必要である。</li> <li>インターンシップの実施で就職につながったケースがあり、地域の担い手確保に向けて、県内農業法人等との連携、インターンシップの実施・充実を期待したい。地域営農法人協会等と連携し今後も継続した取り組みに期待する。先進農林業者等体験学習やインターンシップの実施により受入れ先への就職を希望する学生のマッチングの機会となり高く評価できる。インターンシップの重要性は、受け入れ先でも重要視している。</li> <li>継続事業を含め、新規事業にも意欲的に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門職大学との連携した学生のレベルアップについて → 専門職大学の職員による講義や卒業論文発表会等での指導により学生の意識改革とレベルアップを図る。</li> <li>新たな学習支援やスマート農業学習の充実について → 電子黒板やタブレットなどのICT機材を活用した授業の充実を図る。また、GAP基礎研修を取り入れるなど、時代のニーズに応じた学習の充実に取り組む。</li> <li>専門職大学との連携・調整について → 専門職大学職員と大学校職員とで施設利用等の調整に関する会議・打合せを開催し、連携強化を図る。</li> <li>インターンシップの実施・充実について → 今後も、地域営農法人協会等の県内農業法人等と連携し、積極的なインターンシップの実施により円滑な就農・就職につなげる。</li> <li>各種事業への意欲的な取り組みについて → 今後も、大学校ならではの農業新技術等を組み入れたカリキュラムの強化に意欲的に取り組む。</li> </ul>	B